

令和元年度 自己評価・学校関係者評価報告書

1. 本園の教育目標

- ・神様を知ること、神様と隣人を愛し、尊敬(大切に)できる子ども
- ・自分の思いをしっかりと持ち、相手の立場になって考えられる子ども (自尊心の確立、隣人愛の育つ子ども)
- ・落ち着いて人の話を聞いたり、話したりできる子ども (人と交わる喜びを大切にする子ども)

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

- ・子どもたちがさまざまな人とのかかわりの中で、自分を発揮し、いろいろな感情を体験しながら、心身ともに調和のとれた発達を遂げていくようにする

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	保育計画	B	教育課程をもとに年間カリキュラムを全職員で話し合い、月案、週案をもとに振り返りを行う
2	教職員の体制充実	B	週1回子どもの姿の読み取りを語り合い、幼児理解が深まり同僚性が生まれた。
3	教育環境の構成	B	園庭や室内の環境構成について話し合い、年中同じ環境の場にならないようにする
4	研修や研究	B	毎月1回研修会を開き職員の資質向上につとめる
5	専門家としての能力	B	外部の研修や保育(造形・リズム)の学びを高める外部講師を迎えて学習会を行った

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	5つの評価項目について重点的に取り組んだ結果、一人一人の幼児を大切にしたい質の高い教育を実践することができた

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

5. 今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	生活面	日頃の保育の中で身の回りの整頓、清掃が身に付くように子どもの発達に合わせた指導に取り組む
2	幼小接続	幼稚園、小学校が共に学ぶ機会をもち、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を共有して教育の接続を図る

6. 学校関係者評価委員会の評価

様々な行事が体験できるように工夫されており、子どもが新鮮な経験を得られる。どの教師も子どもの考えや思いを尊重しており、他クラスの園児のことも気にかけている。一人一人の成長や変化をよく見て認めてもらうことで子どもたちの自信につながっている。

子どもたちは日々色々なことを学び、覚えて帰る。子どもにとってとても必要な場所であると感じる。のびのびとした環境なので、子どもたちが元気で生き生きとしている。